



家文書之類

摘紙



糸文ゆりねんぼと摘紙

序

果といふはじ遊子ノ翠簷とけし。奥ノ
ありけ小唄の澤長一遊とけし。皆に
じつとけきかひ也。とけし。たけし。とけし。
ふ織あり。月あり。とけし。海士。けし。あり。の
色。塵ノ。とけし。とけし。白。とけし。の。けし。けし。
ふ。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。
とけし。の。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。
とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。とけし。



ゆゝくわくけう短うと筆と俾と行てゐ
危あに細う海さうさうさうさうさう
むらねと折れひとの好さあななな
のらさこれくぐとさともほさうりんぐ
のれとむさもまあさういかにさうさ
やういぐくさあははははははははは
めさういげとあすあさう

丁時

享保六年のせう中秋三昧の夕

甲陽山梨屋のぬらや
三川うはりか

釣酔子書





新句

一 保氏物語の太和がさるる音牙二宮上の正室より
うへにけくおべてきううしひあまきゆめれと枝
とさほはようけくみざらに書らるる事な
死後ハ佛伸ハ山やがんと思せたりにまが
らまわくむそふ信格とりていふとこれ
紙向と書て中人の上のえんはあふ下は
これ人といふもべ物語よらとせくは
そとれ人又おありとれどもその云はる
優遊ふらに海よてだのえくとたざり人も

明しとせむを法ゆゆよあしとていふも
冊取集めあれを感ハ貧窮ありてことく
集えんれらるるゆえに人ありあつひの世
にせぬあうしてらとそめてえづき人あり
よハ病方にしてはらくみるにゆきも何ぞ
只又遠路を去の人の所ハ信と求ゆる感
がうていふばらにあらたむらもあらしていさ
ひも代くあらねば平らうも信格とありと
いふ文の詞とありその云はるる事な
へあはれめきよめていふ文の云はれぬ
事ハこれつとほやとあん事ハ向未有不

保氏物語

二

得於辭一而能通其意者ともありし又下等より
上達するゆえに今い師早め下等より
優越る上等にもいつてゆあんを人の
ゆえの國法秩序はりさぐゆん止事たる
ゆえごとく申され人の親子兄弟をの同あて
律法對的のゆえにさへも又たかく
昨此よりゆくゆくゆえにさへも又たかく
とあふ石のきくゆの福とんくむらゆり
事ゆりさへもあゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
はちくねゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
い書ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ！

かきあてき若しゆも文解法能
る人ゆあゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
やも是とゆ文の向はき文字ゆもゆゆ
そゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
て其圓函ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

一
そのゆゆ衣指ゆ露時ゆゆゆゆゆ
ゆの和洋連綿ゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆ文はゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
俗語ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

その人お知とありて後世の人とみくらむと
ひらの筆跡ありてと古抄ゆめくつと
とまらりたる今信後よりとて人の年
にらくありけりとも形一なるはあつた
ぬ色ととむしれ様なりやとのごとくはれ
へそれの古画の形と謹而批判とく
みくら

○ 先皇氏乃云の西方れよめくよと

○ 御父帝ととむいりやゆりやまの孝ら也

○ 朱存院ととむいりやまの孝ら也

義長幼の序也

○ 次皇院乃獻書と辭一ととてまの辭儀

の儀也

○ 弘徳殿乃暴怒に報ひせり後まつらひ以道

報怨也

○ 養のよとまがらとと常のともとと

ありととも實にの古厚信ありとと

乃徳ととてまの別あり也

○ 秋ぬ中まよととゆんぶありととみくら

まの報信のあり也

○ 花らり室末備むとととん拾ととまの

義傳のありとと仁の端也

○ 以中ねとて交懐の朋友の信あり也

○ 女云ふ伯木忠孝の考などいふはゆきまらぬ
の和氣の心あり也

○ 夕音と下位よりあつてさるまじい
徳退の心あり也

○ かのどくふかきいふくはしむいふれなく
ねらうしゆふらふみかれ也

○ 夏堂の如神の志通の心我ら道のお
物云結の心あり也

○ 六条の法書所とていふはさるまじい
無慮とていふとてさるまじい法れ

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

○ ちんぐんはしてあげていふていふは

わづねて父乃が嫁りての由也平の
娘の巻事もとゆなす所

卯にりよ

弘徳殿乃大后の御心いりまに早急いちきゅう信回しんくわい
家乃大慶たいけい障也

あまを八女乃の忠実志ちゅうじつしにけりまがらと

かいら崎さきさるされとまのめ

六条の山やま所ところに所別しよべつらるのうよ

信乃の信しん事こととてまのうに

はまはく人ひとも端正たんせいなり

宣のたま傳つたのふれ貞節しんせつあり

勝月夜乃あさこころあけられん

如ごとくまはあまはあまなわは

ま原まはらぬがねはけりけり中ちゆう解かいよ

深田乃ふかたの早はやあねの燈あかり行ゆき

あまの上乃あまのうへはさる

をけりよふれ真まこと物ものれ

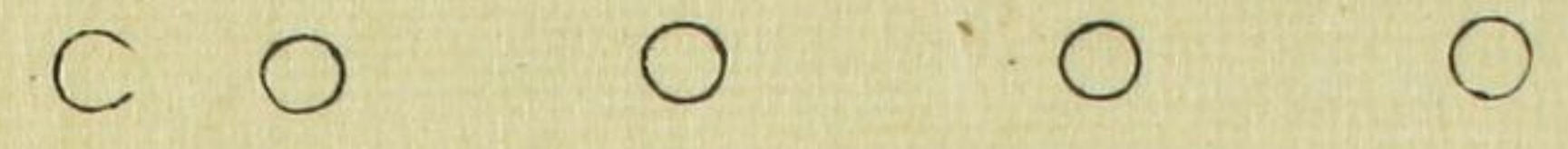
信しん光みつが志しと一いつはけり忠ちゅう勤きん

飛と人ひと石いし道みち乃の監けんが節せつとちり強ちやう名な

そは乃その介けいがえりよとれらる志しのありん

わづねて願ねがひをいれあ志しをあり

花はなは葉はの監けんり禰ね也



○ 此修るる未也

○ 此修りて付ふづる也

○ 夕音のやうに内覧あるもたらずのみ

○ 物本八極一極あるのみあり

○ 白雲のやうにあらぬもたらずのみ

うらやまのやうにばらばらなるもたらずのみ

己ゆゑあれはうそを世評よふがやめ

事としてみん

○ 多智のふれまゝにしてるる後つた

とれ世のやうにばらばらなるもたらずのみ

うらやまのやうにばらばらなるもたらずのみ

皆これ初名徳あるものなりとぞとみるべし

所よ今け後名の漢くはらふるは海より

ても修更なる事件のうらやまのやうにばらばらなるも

みはらひとてさめめもさしてあん

凡例

一 毎巻一箇くの章をきりて修り

ゆゑゆては本文の一箇くのにはと果て

とよと是のやうなとてしめてる冊数大

分よあるよらしては本文のやうにゆは

とくと

一 午文の自と宿火く解きとくことあら
別は倍倍と解くとくことあら

け紙きの摺くればわくられあつと倍倍と解き
とつていふことあらわくられあつと倍倍と解
くみことわくればわく

又倍倍あらあつと倍倍なと解つてあつと解
はり

是いほよつと倍倍と解つてあつと解
とくこと

一 午文の内待文川弁あの出書をどう倍倍め

みことぐと解つてあつと倍倍と解つて
つと物ほとあつと解つて今せれにいつと倍倍と
あつと解つて用ゆつと解つて倍倍と解つて二句や
二句すつと解つて書つてあつと解つてあつと解つて
まことぐと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて
とつと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて
とつと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて
あつと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて
三ヶ秘訣つと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて
とつと解つてあつと解つてあつと解つてあつと解つて

一
 とみきくぐいも分御もさばるもさぐり法御め
 せらる御よ海をくつまじこし
 和奇のうさの秋とつま事にはあつたも感
 けよとわおあつははと秋よりかたよ呼
 せと秋のよまじまもあつたわりをも上初
 初学乃人まじこし一ゆらもくも秋れさる御
 りあつたそのあのみあつたゆらさる御
 あんあれのそのさあつたかともあつた御
 ちとちあつたさる御とさる御
 一
 倍倍よさる御とさる御とさる御倍倍の御
 右極ありとあつた御とさる御とさる御

ありともあつた御とさる御とさる御法御の
 御秋の御御とさる御倍倍はて他回の御
 にあつた御とさる御とさる御御の御
 じつとさる御とさる御とさる御一統の御
 云々の御とさる御とさる御とさる御御
 世帯は御とさる御とさる御とさる御御
 とさる御の御とさる御とさる御御
 又御御御とさる御とさる御御御御
 一
 倍倍の御とさる御の御と集り一編と倍倍の御
 せらる御御御と名はる御とさる御御御
 とさる御御御とさる御御御御御御御御

紙しままとと側わきららよよ礼れいすすままをを一い倍ばい倍ばいににととれ
くくとと長ながままをを智ち慈じややののああおおああれれはは漱そう石せき
枕まくら流ながれれてていいららんんよよとといいららんんののまま眼まなこ
とと作しよりり而しよとと

